

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 8 月 27 日 (2020.8.27)

【公表番号】特表 2019-529056 (P2019-529056A)

【公表日】令和 1 年 10 月 17 日 (2019.10.17)

【年通号数】公開・登録公報 2019-042

【出願番号】特願 2019-538738 (P2019-538738)

【国際特許分類】

A 6 1 F 9/007 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 9/007 1 6 0

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 7 月 17 日 (2020.7.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

眼球の前眼房にある房水を排水するための排水装置であって、
前記排水装置は、

チューブ軸に沿って遠位端（10'）と近位端（10''）の間で軸方向に延びる排水チューブ（10）を含み、

前記遠位端及び前記近位端は少なくとも部分的に開口し、同じ方向に斜めに切られており、

前記排水装置はさらに、

上面（32'）及び下面（32''）を有する板状部（32）を含み、前記排水チューブ（10）の前記近位端（10''）から延びる保持フランジ（30）を含み、

前記近位端（10''）は斜めであり、その開口部が前記板状部の前記上面（32'）のほうを向く、

排水装置。

【請求項 2】

前記板状部（32）が主に前記チューブ軸（X）と直交する方向に延びる、請求項 1 に記載の排水装置。

【請求項 3】

前記保持フランジ（30）が前記チューブ軸（X）に関して対称に延びる、請求項 1 又は 2 に記載の排水装置。

【請求項 4】

前記保持フランジ（30）の前記板状部（32）が実質的に長方形であり、長辺は前記チューブ軸（X）に直角である、請求項 1～3 のいずれか 1 つに記載の排水装置。

【請求項 5】

前記排水チューブ（10）の前記近位端（10''）が前記板状部（32）の前記上面（32'）の中央部で開口する、請求項 1～4 のいずれか 1 つに記載の排水装置。

【請求項 6】

前記保持フランジ（30）が、前記排水チューブ（10）に連結されるチューブ部（34）を含み、

排水チューブ（10）の近位部が、前記チューブ部（34）のカプリング形状に挿入され

、

前記チューブ部が、少なくとも部分的に前記板状部（３２）の前記上面（３２'）に向けて開いた近位側開口部（３４'）を有する、

請求項１～５のいずれか１つに記載の排水装置。

【請求項７】

前記板状部（３２）の厚みが、前記排水チューブの近位側開口部とチューブ部の前記近位側開口部との両方を部分的に塞ぐ、請求項１～６のいずれか１つに記載の排水装置。

【請求項８】

前記チューブ部（３４）が、一部が前記板状部（３２）の厚み内に作られ、一部がその前記上面（３２'）から突出する、請求項６又は７に記載の排水装置。

【請求項９】

前記排水チューブ（１０）及び前記保持フランジ（３０）は実質的に互いに同一平面上である、請求項１～８のいずれか１つに記載の排水装置。

【請求項１０】

前記排水チューブが横壁に沿う開口部を有さない、請求項１～９のいずれか１つに記載の排水装置。